

実践例④ 第4学年 特別の教科 道徳

1 主題名 分けへだてなく【C-13「公正、公平、社会正義」】

(教材名「いじりといじめ」小学校道徳「生きる力」日本文教出版4年)

2 各学年の内容項目とその傾向 (公正、公平、社会正義)

	第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年	中学校
内容項目	自分の好き嫌いにとらわれないで接すること。	誰に対しても分け隔てをせず、公正、公平な態度で接すること。	誰に対しても差別することや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること。	
指導にあたって	日常の指導において、公正、公平な態度に根差した具体的な言動を取り上げて、そのよさを考えられるようにする。また、偏見や差別が背景にある言動については、毅然として是正することができるようにする。	不公平な態度が周囲に与える影響を考えさせるとともに、そのことが人間関係や集団生活に支障を来たしいじめにつながることを理解できるようにする。	不公平な行為は絶対に行わない、許さないという断固たる態度を育てられるようにする。	

3 本校の研究テーマとの関連 ※ _____下線部は、本主題の重点

(1) 研究テーマ「自己を見つめ、他者のよさに気づき、互いに認め励まし高め合う子どもの育成
～自己肯定感を高める取組を通して～」

(2) 研究の視点

視点ア②交流活動の工夫	視点イ①ユニバーサルデザインの視点
他者を見つめ、受け入れ、理解することができるような「他者理解」を深められるように、「いじり」について、自分の考えをもって話し合う交流活動をさせる。	他者を見つめ自分にできることを考えるような「認め合う力」を高められるようにするために、授業の流れや子どもの考えをつかむような授業における板書の工夫をする。

4 実 際

(1) 目 標

いじりといじめについて考え、いじりはいじめにつながることに気づき、誰に対しても分け隔てせず相手を大切にしようとする態度を養う。【学びに向かう力、人間性等】

(2) 自己肯定感を高める「他者のよさに気づき、互いに認める」手立て

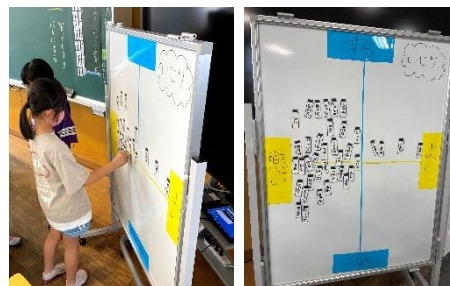
視点ア②交流活動の工夫	視点イ①ユニバーサルデザインの視点
② 「いじり」についての話合いから一人一人の捉え方の違いに気付くことができるようにすることで、他者理解に繋がるようにする。 ② 友達のノートを見て、自分と同じ意見には「☆」、違う意見には「◎」の印を付ける時間を設けることで、様々な意見にふれ他者のよさに気づけるようにする。 ② 自分に同じような経験がないかを問うことで、自分の生活を振り返りながら「いじり」について話し合えるようにする。	① 「いじり」に関する動画を視聴することで、「いじり」がどのようなものかを考えることができるようにする。 ① 四象限の表を使って「いじり」への賛成または反対／しているまたはしていないかという自分の立ち位置を明確にすることで、自分の生活を振り返ることができるようにする。 ① 自分のことを考えているか、相手のことを考えているかについて問いカードで示すことで自分のことだけ考えていたら傷ついている人がいるかもしれないということに気付くことができるようにする。 ① 子どもの発言に表情のマークを示すことで、登場人物の気持ちをつかむことができるようにする。

(3) 本時の流れ

1 自分の生活における「いじり」について考え話し合い、本時のめあてをつかむ。

T：みなさんは、普段の生活の中で、「いじり」をしていますか、していませんか。
C：みんなが笑顔になるから、している。
C：面白い人なら大丈夫だから、している。
C：笑っていても、傷ついていないかは分からないから、しない。
T：今日は、みんなが気持ちよく過ごすためには、どんな気持ちが必要かを考えましょう。

みんなに分けへだてなく接するためには、どんな気持ちが必要だろう。



2 資料について、自分と同じ・違う意見に印を付け、様々な意見にふれる。

(1) 主人公の気持ちを考える。

T：「今の笑っていいのかな。」と言ったみかは、どんなことを思ったのだろう。
C：間違いを笑っていいの。
C：本当に気にしていないのかな。
C：今のは、笑わない方がいいと思う。

(2) 自分と同じ・違う意見に印を付け、意見交流をする。

C：まさるくんの本当の気持ちは、どうだったと思う？
C：笑っているから、嬉しいと思う。
C：うつむいているということは、傷ついているかもしれない。

(3) 全体場で学び合う。

T：ゆうきは、みかの言葉でどのようなことに気づいただろう。
C：いじりだと思っていていけど、いじめかもしれない。
C：本当は傷ついていたかも。
C：どんな人であっても、間違いを笑ってはいけない。
C：誰に対しても、同じような接し方をした方がいい。



3 再度「いじり」を考えて、今後の自分の生活について話し合い、振り返りをする。

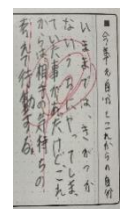
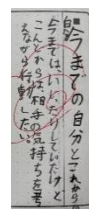
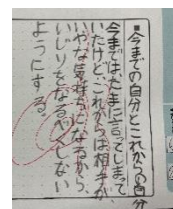
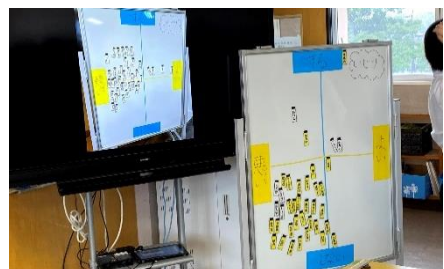
(1) 自分の生活に立ち返った上で「いじり」について考え、今後の自分の生活について話し合う。

誰に対しても、相手の気持ちを考えて接しようという気持ちが大切である。

(2) 本時の振り返りをする。

T：今日の振り返りをしましょう。
C：今までは、気がつかないうちにいじってしまっていたことがあったけど、これからは相手の気持ちを考えて行動したい。
C：これからは、相手が嫌な気持ちになるから、いじりをしないようにする。
C：今日から、どんな人であっても相手の気持ちを考えて行動したい。
C：誰に対しても、同じように接していきたい。

T：始めの立ち位置と学習後の立ち位置には、このような変化がありました。「これから、いじりをしない。」という人が増えましたね。



5 考 察

- 導入で、「いじり」に対しての一人一人の捉え方の違いがあったが、動画を視聴することで共通認識を持たせ、心の立ち位置を四象限表で明確にすることによって、自分を見つめ直す様子があった。
- スタンディングミーティングの際に、自分と同じ・違う意見に印を付けることによって、子どもたちが積極的に考えを交流でき、他者のよさに気付くことができた。
- 自分たちの生活に立ち返る際、ペアやグループで具体的な様子を話し合わせるなど、普段の生活について、学び合いを深める場面を長く設定する必要がある。その上で、全体で意見交流をすると意見が出しやすいと考える。